

総務委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

会員へのサービス向上のためのシステムや企画の立案を通して、会員の円滑な学会活動、学術活動を推進し、学会全体の活動性を向上させる。

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 各種細則の修正(年齢, 任期など)
2. 学会所有著作物に対する使用に関するシステム構築と許認可
3. 日本医学会, 厚労省などの諸団体からの周知依頼やお知らせなどの学会員への周知
4. 役員や評議員(新規, 更新)申請に関わる疑義への対応

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

1

財務委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

学会の収入と支出を逐次把握し問題点があれば理事会に報告する。支出に関しては大きくは各種委員会・セミナー関連の前もって予測できる支出と単発で発生する支出がある。前者は毎年年末に一度、後者は逐次審議を行う。審議結果は理事会に諮り決定を仰ぐ。

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 学会収支状況の確認と支出項目に関する月に1度の定例審議および緊急を要する場合の臨時審議を、ウェブまたはメール会議形式で行う
2. 委員会/セミナー予算審議

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

12

委員会あり方検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

各委員会の事業計画および活動報告、委員交代および募集状況を掌握し、その活動を支援する。
委員などのCOI確認評価を行う

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 各委員会が提出する、修正事業計画(4月の年度初め:前年度提出された事業計画を修正する場合)、次年度事業計画(秋:予算審議時期)および活動中間報告(秋)、活動年間報告(12月から翌年1月:年報用)の内容を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。
2. 各委員会の委員交代および新規委員募集の有無を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。
3. 委員などのCOI確認評価の内容、スケジュールを決定する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4

支部あり方検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 支部の活動の活性化を進める。
2. 支部学術集会の活性化を進める。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 各支部の抱える問題の抽出と対応策検討
2. 支部学術集会の開催収支の適正化
3. 支部学術集会の発表・参加の促進
4. ダイバーシティの活性化(若手・男女参画・多職種の登用など)
5. 学術集会あり方検討委員会、ダイバーシティ委員会、U35との連携強化

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

5回(定期開催)

学術集会あり方検討委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

総会・支部会を含めた演題登録システムを構築し、学術集会の質を担保できるシステムを作り上げる。
基盤システムと連携した演題登録・査読システムの完成。
学術集会関連アンケートの実施と改修。
学術集会開催時期変更への対応。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 総会・支部会を含めた演題登録システムの構築。会員管理基盤システムと連携しながら①キーワードによる登録システム②査読結果feedbackシステムを必須項目として開発を行う。
2. 集会後のアンケート
毎年行われている学術集会後のアンケートを行う。アンケート結果を基に学術集会の振り返りを行い、次回以降の学術集会の運営改善につなげる。
3. 学術集会運営要項の改変
これまでに蓄積されてきた学術集会に関連するルールを明文化し、運営要項として制定する。著作権や倫理規定に関しても新しい項目を制定していく。
必要な項目を改修していく。
4. 学術集会開催時期変更に伴う各種調整と問題点の解決を図る。
5. 支部学術集会では趣意書の統一や運営決算書の提出・確認を行っていく。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

12

集中治療医学会基盤システム構築委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

2023年7月25日に、新会員管理システムが構築されて、e-医学会から会員管理情報の移行を終了した。今後、新規に4つのプロジェクトを並行して行っていく。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1)新査読システム

2025年開催53回大会の一般演題募集(24年6月ごろ?)からシステム稼働を目指す

2)セミナー管理システム

2024年7月完成予定

3)学術集会、セミナー参加登録システム

2024年3月開催の学術集会で使用予定

4)専門医登録システム

2024年4月使用開始目標

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

全体会議として年に6回程度
小会議は、週に2回以上を行う

ブランディング委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 集中治療医学会のブランド(影響力とイメージ)を向上する。
2. 学術集会・学会イベント・学会資料を目標と評価を持って発信する。
3. 集中治療医学会の認知度を国内・国外において向上し、求心力を高める。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

①集中治療のブランディング活動の目標・マイルストーン・計画を明確にする

- ・学会ブランド活動としての目標を明確化し、マイルストーン作成と実施を行う
- ・様々な学会活動のHubとして、各活動と積極的に連携し、学会活動の活性化と支援を行う

②集中治療医学会の情報発信の根幹として継続したHPの改善を行う

- ・HPWGを中心に内容の整理・新規コンテンツ掲載
- ・英語ページの継続した改善
- ・評価指標を用いたHP構成の改善
- ・その他、新規HP改善活動

③SNS発信体制の強化および目標を持った発信活動を行う

- ・SNSWGの発信体制を再構築し、学会主旨・規約に則った発信活動を活性化させる
- ・評価指標を明確化し、対策を実施することで、学会のSNS発信による影響力を向上させる
- ・学会活動・学術集会・学会企画の現場からのSNS発信活動を活発化する
- ・動画・新規コンテンツを積極的に取り入れ、魅力的・効果的な情報発信を行う

④各委員会と連携して、委員会ページのアップデートを行う

- ・ダイバーシティ委員会及びその他の委員会ページ作成を行う
- ・委員会活動のSNS発信のフローを明確化する

⑤定期的なインタビュー動画作成とHP掲載を行う

- ・「学術賞受賞者のインタビュー」「JINC 採択論文インタビュー」、その他

⑥集中治療の日(2月9日)に向けた企画立案をする。

- ・2025年2月8日に市民公開講座を企画・実施する
- ・向けて集中治療を発信する企画を立案して、制作に取り掛かる。

⑦学術集会・支部学術集会・セミナー等の開催記事を定期的に行う。

- ・学術集会・支部学術集会・セミナーの開催概要のレポート報告を定期的に行い、支部学術集会のレガシーを蓄積する

⑧その他、必要なブランディング活動

- ・支援を必要とする学会活動において、分け隔てなく積極的に活動する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

開催は、月2回を定期開催とする。必要な場合には臨時開催を適宜行う。

国際交流委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 協定アジア諸国[KSCCM, TSCCM(Thai), TSCCM/TSECCM(Taiwan)]と連携して、集中治療医学の進歩と発展を追求するとともに、協定アジア諸国間の集中治療医の相互理解を深める。
2. 多国間交流の起点として、多国間シンポジウムを企画、実行する。
3. ESICM, SCCM, ANZICSなどの欧米集中治療学会とビジネスMeetingを行う。
4. KSCCM-JSICM25周年記念の準備を行う。
5. タイ集中治療医学会とのJoints シンポジウムを行う。
6. 国際学術団体からの学術的な情報を学会員に情報を提供する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. SCCM/ESICM/KSCCM/TSCCMとの定期的なビジネスミーティング開催の準備をする。
議題の準備、お土産の準備、参加者の確認
2. 協定アジア諸国とのジョイント kongress を大会長・理事長と協議の上、運営、開催の支援をする。
3. 2025年3月TSCCM(Thai)とのJoint開催(日本がホスト)の準備を行う。
4. SCCM-JSICM25周年記念の準備を行う。
5. 国際交流に関するホームページ掲載内容をアップデートする。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2

50周年記念事業準備委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 日本集中治療医学会雑誌50年特集号を発行する
2. 50周年記念誌を発行する

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 日本集中治療医学会雑誌50年特集号を発行する
2. 50周年記念誌を発行する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6

著作権対策委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

著作権+個人情報保護指針を確認する
イラストバンクを整備する

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

著作権+個人情報保護指針を確認する
イラストバンクを整備する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6

統括教育委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

全職種のセミナー、学会参加などのクレジット、単位を整理する

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

全職種のセミナー、学会参加などのクレジット、単位を整理する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4

集中治療医療提供体制改革検討委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

前年度に引き続き集中治療医療の提供体制について検討を行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

厚労科研研究(日本医学会連合外科Gと本学会からの申請)との連携を行う。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

全てウェブで5回程度、一部はコアメンバーのみ

社会保険対策委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 診療報酬改定に向けて、本学会の要望を実現するよう活動する。
2. 診療報酬改定を受けて、円滑な運用を支援するよう活動する。

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 2026年度診療報酬改定に向けた活動

評議員・委員会アンケートを行い、診療報酬改定要望を抽出する

委員会及び理事会にて稟議を行い、10項目程度の要望案に絞り込む

要望案を外保連提出、内保連提出、厚労省直接交渉の3群に分類し、それぞれ外保連提案書、内保連提案書、厚生労働所への要望書を資料とともに提出する

次年度のヒアリングに向けたエビデンスの強化を行う

2. 2024年度診療報酬改定を受けた活動

改定内容の実施支援のための活動

3. その他

学術集会における委員会関連活動

内保連・外保連での各委員会活動

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

10

薬事・規格・安全対策委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 集中治療室における転倒・転落発生の防止に向けた対策の実状を把握する。
2. 医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進に関する事業を行う。
3. 集中治療に関連する医療安全に関する情報の収集、課題の抽出、分析を行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 集中治療室における転倒・転落事例発生防止に向けた対策に関するアンケート調査と集計、分析を行い、結果を学術集会ならびに学会誌で報告する。
2. 「医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進事業」に応募のうえ、年度内に事業の実践(ワーキンググループの設置、活用ガイドの作成・周知、実施報告)を図る。
3. 集中医療に関連する医療安全(医薬品安全、医療機器安全等を含む)に関する情報を収集し、課題があれば分析・検討のうえ、学会員に向けて情報を提供する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6

臨床倫理委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」の改訂(緩和医療学会を加えた「4学会からの提言」への発展。「終末期」の定義の見直し。延命治療終了時の緩和ケアに関する具体的な記載)。
2. 教育講座「集中治療と臨床倫理—倫理的・法的・社会問題(ELSI)への対応」の内容刷新(改訂版ガイドラインの内容を盛り込む。救急・集中治療終末期の緩和ケアに関する講義を加える)。
3. 「集中治療における患者家族のこころのケア講座」の継続、アップデート。
4. 3学会の終末期レジストリの遂行。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 終末期ガイドライン改訂:2023年7月集中治療学会理事会にて改定することに関して承認済み。救急学会、循環器学会、緩和医療学会に協力依頼文を郵送し、各学会より協力に関して承認済み。各学会のガイドライン作成メンバーを決定後、2024年12月ごろまでに原案を作成し、2025年3月の第52回学術集会でパブリックコメントも含めた公開討論を行い、最終版を確定する。終末期ガイドラインに関しては、4学会の学会横断的なガイドライン作成メンバーとの会議を対面式で年度内に行う。
2. 2024年度も例年通り、4回開催。
3. 2024年度もオンデマンド講義+対面式グループワークでの開催。
4. 3学会の終末期レジストリのパイロットスタディに参加。研究参加施設の募集に協力。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6回

遠隔ICU委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- ① 本邦における遠隔ICUのあり方の明確化
- ② 遠隔ICUの普及に向けたセミナーの開催
- ③ 遠隔ICUのエビデンス収集

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 定期的な委員会開催による課題および情報共有
遠隔ICUの普及に際しての課題や展望を共有する。
(各地域で導入に際した課題について議論する。)

2. データ標準化に関する検討

生体情報モニタに加えて、人工呼吸器などの医療機器のデータ標準化に関する検討を行う。

その際に使用する生体情報のパラメータについて整理を行う。

レジストリやデータ利活用に向けた遠隔ICUのデータベースの構築について検討する。

遠隔ICU研究推進WGを発足して、データ標準化を進めていく。データ収集に関してもAI等を用いて自動でデータを収集するシステム構築の検討などを進めていく。

3. 遠隔ICU導入施設のエビデンス集積と新規施設の拡充

遠隔ICUに取り組んでいる施設からのエビデンスを収集する。

新たに遠隔ICUに取り組もうとしている施設の進捗・課題についての情報収集も行なっていく。

4. 遠隔ICUセミナーの開催

遠隔ICUの普及に向けて、導入を検討しているスタッフのためのセミナーを企画検討する。

日本集中治療医学会の認定セミナーとして開催をしていく。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回

ICU機能評価委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 集中治療専門医研修認定施設の機能評価を実施する
2. JIPAD事業を推進する
3. 診療の質指標を開発する

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 集中治療専門医研修認定施設の機能評価

- ・本邦の集中治療医療提供体制を明らかにすべく年次施設調査を実施する。
- ・調査対象は学会認定専門医研修施設とするが、機構専門医制度時代の調査対象につき検討を進める。
- ・報告書を作成し、学会内外に情報開示・共有を行う。
- ・最新の施設情報を基盤システム、専門医制度・審査委員会およびJIPADに提供し、一元化を図る。

2. JIPAD事業

- ・NPO法人ICONと協力して、より精度の高いデータベースをめざす。
- ・2023年から参加施設から年会費10万円を徴収することとなったが、さらに来年度は参加施設が増えることが予想される。業務の相当な拡大が予想されるので年会費を有効利用する。
- ・事務手続きやデータ解析、各施設への連絡などの業務はできる限り外注化を図り、ワーキンググループメンバーの負担軽減およびデータの質の担保を図っていきたい。具体的にはクエリ制度、マニュアル、辞書整備、解析一般、DPCデータの取り込みなどの外注化を進める。
- ・新たなワーキンググループメンバーを募集する。
- ・専門医制度や学会の基盤システムにも活用できるようJIPADの内容を進化させる。
- ・学術集会にてワークショップ(JIPAD四方山話)を企画する。

3. 診療の質指標開発

- ・診療の質指標開発ワーキンググループ(2017年発足、2023年3月解散)の活動成果を論文化する。
- ・JIPAD参加施設においてDPCデータを収集し、WGによって開発したQIを測定する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

3

災害時の集中治療検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- 1)「災害リバーストリアージの考え方」作成
- 2)「非常時のICUエスカレーションの考え方」作成
- 3)能登半島地震被災地域のICU活動と課題検討

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・「災害リバーストリアージ」における、横断的トリアージ(transvertical triage)と縦方向トリアージ(longitudinal triage)の概念について解説資料を作成する。
- ・「非常時のICUエスカレーション」経験施設にアンケートを実施する
- ・「非常時のICUエスカレーション」の実施法や注意点について解説資料を作成する
- ・能登半島地震被災地域のICUを対象としたアンケートを実施する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

委員会打合せ 3回

臓器提供・臓器移植検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 多職種からなる地域ドナーコーディネーターチーム養成コースを開発し、地域で臓器移植が発生した際に対応できる体制を整備する。
2. 「臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル(厚生労働科学特別研究事業)」を普及させる。
3. 「法的脳死判定マニュアルの改訂を含む臓器提供に係る医療者教育に資する研究(厚生労働科学特別研究事業)」を他学会と連携して行う

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 地域ドナーコーディネーターチーム養成コースの開発を行う。
2. 「臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル」を普及させる手段を検討する。
3. 「法的脳死判定マニュアルの改訂を含む臓器提供に係る医療者教育に資する研究(厚生労働科学特別研究事業)」を他学会と連携して行う

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

12

PICS対策・生活の質改善検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

本年度は本委員会で以下の2つの活動目標の達成を目指す。

- 1)委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成
- 2)PICS対策の保険収載に向けた活動の推進

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- 1)委員会研究の英語論文化の加速と新規PICS臨床研究の創成

現在進行中の委員会研究の論文化を推進し、4つの新規英語論文の受理を目指す。具体的には、現在本委員会で実施している1) JPICS database研究、2) JRELIFE研究、3) JPICS-p study研究、4)臨床心理士の介入が家族のPICSに与える影響、の4つである。また今年度は、PICSラウンドおよびPICS外来収益に関する国際アンケート調査も実施し、PICS対策の保険収載化に向けたエビデンス創生を加速したい。さらに各研究チーム体制を整備し、いくつかの研究シーズを論文化につなげるシステムづくりも行いたい。

- 2)PICS対策の保険収載に向けた活動の推進

1)の研究成果と活動実績をもとに、PICS対策の保険収載に向けた活動も推進していきたい。昨年度は特定集中治療室退室後フォローアップ体制加算、せん妄ハイリスク患者ケア加算2、早期離床・リハビリテーション加算の点数増点と重症度に重み付けした評価への見直し、早期栄養介入管理加算の重症度に重み付けした評価への見直しの4つを令和6年度診療報酬改定に向けた技術評価提案書にまとめ、内保連に提出した。今後もPICS委員会の研究成果を用いてPICS対策の保険収載に向けた活動を展開していきたい。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2回

Rapid Response System検討委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

RRSの実態把握と推進をはかりながら、さらなるRRSの普及をはかる

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. RRS運用指針の完成
2. RRSとRRSレジストリの普及とその効果に関してレジストリーの研究推進を行う。
3. RRS全国調査継続
4. RRS出動スタッフ養成コースの実施
5. 日本院内救急検討委員会の運営(日本集中治療医学会、日本臨床救急学会、日本循環器学会、医療の質・安全学会、日本小児救急医学会、医療安全全国共同行動、日本蘇生協議会)とiSRRSへの参画検討

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

ECMOプロジェクト委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

ポストコロナにおいても、関係学会および団体とも連携を維持・強化しつつ、我が国のECMO診療の普及とその質の向上に向け尽力する

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・NPO法人 日本ECMOnetと連携し、ECMOに関わる教育事業を継続する
- ・NPO法人 ICONと連携し、ECMO診療のデータベース構築を実現する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2回程度

セミナー管理委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

セミナー開催時、学会の教育方針との整合性、他のセミナーとの競合性(時期的)、地方会セミナーの本会委員会との内容の整合性を確認する

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 本会委員会企画のセミナーの日程の確認(他のセミナーと競合している場合は、助言する)
2. 支部会企画セミナーの本会各領域教育内容との調整を助言する。
3. セミナー申請フローの周知、マニュアルの整備をおこなす。
4. 委員会以外からの申請セミナーの適切性の審議を行う。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4

セミナー企画委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

WEBを用いたセミナーとe-learningの整備をする

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. リフレッシャーセミナーの安定的な開催する
2. 現在掲載中JICEC30講義のうち約20%を更新し、新たな講義の追加も行う
3. 専門医機構の要件である医療安全、倫理、感染のセミナーを関連委員会と調整し検討する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

3

専門医制度・審査委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

学会認定制度延長による機構認定専門医制度と学会認定専門医制度の並行運用。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- 1.学会認定専門医新規申請者の書類審査/筆記試験合否の判定
- 2.学会認定専門医更新申請者の書類審査と合否の判定
- 3.学会認定専門医研修施設の更新申請の審査
- 4.機構認定専門医研修施設の新規申請の審査

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

11

サブスペシャルティ専門研修プログラム作成委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

2024年6月1日より専攻医研修管理システムをスタートさせる。2023年4月1日に研修開始した専攻医の研修修了予定が2025年3月31日となるため、問題点が起きた場合は迅速に対応する。また、専攻医研修、専門医更新、研修施設認定、研修施設更新の要件を引き続き検討・見直しを行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- 1.専攻医研修管理システムの6月開始
- 2.専攻医研修管理システムの継続した要件定義の検討
- 3.専門医の更新を検討
- 4.研修施設認定・更新の要件の見直し

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

約48回(毎週木曜日18時からWeb会議を開催する)

専門医試験委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

専門医の資質に値する知識を確認する上で必要な試験制度を整えることを目標に、専門医試験問題作成及び過去問題の掲示を行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 2024年度専門医筆記試験問題作成
年7回の参集型委員会で問題を校閲し、優良問題を作成する。
試験終了後は問題を再検討し、2024年度専門医試験問題、正解として掲示する。

2. eテスト
サブスペシャルティ領域専門医の更新のためのeテストの検討を行う。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

8

教育委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 2024年10月 集中治療専門医テキスト第4版を発刊
2. 1を踏まえて今後の集中治療専門医テキストのあり方および出版計画の作成
3. 2をベースとした具体的な専門医第5版の編集出版スケジュールの作成

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 現在著者校正および脱稿原稿の版組みが進行中
2. 6月までに編集担当(教育委員および各章グループリーダー)による最終編集会議
3. 6月中に最終著者校正
4. 10月の学会専門医筆記試験前後に発刊

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

1. 委員長、担当理事、事務局テキスト担当、教育委員コアメンバー、出版社によるWeb会議を適時開催
2. IIに記載した編集担当者会議は参集(1回もしくはメンバー分散で2~3回、ハイブリッドを想定)

超音波画像診断認定制度委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 認定試験を行う(CBT様式:CBTソリューション(株))
2. ハンズオンセミナーを開催する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 認定試験作成WGを構成して、試験問題を作成する。
2. 認定試験をを行う(CBT様式:CBTソリューション(株))
2024年12月8日 札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡予定
3. 委員会認定ハンズオンセミナーを年4回開催する(3-5時間と短時間コースを開催する)。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

委員会:変更なし

試験作成WG:4回予定(1回は蓼科セミナー)

学会認証看護師制度委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

集中治療認証看護師制度の第3回試験の適切な運営が行われる。
集中治療認証看護師認証試験の受験者数の安定的な確保がなされる。
次年度以降に向けた更新制度を含む制度および教育システムの見直しによる集中治療認証看護師制度の改善が行われる。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 2024年度4月 集中治療認証看護師試験の公募案内の検討
安定的な受験者確保に向けた広報活動の実施
2. 2024年度4-9月 集中治療認証看護師試験の試験問題の作問(不適切問題を減らすためのシステムの見直しおよび実施を含む)
3. 2024年度4-10月 第3回集中治療認証看護師試験の適切な運営に向けた検討
・実施フローの明確化、当日運営チェックリストの作成、当日運営方法の再検討等
3. 2024年度11月 第3回集中治療認証看護師試験
4. 2023年度12月 次年度に向けた教育システム(セミナー含む)の見直し
5. 2024年度1月 集中治療認証看護師(ICRN)または集中治療認証看護師－知識認証(ICRN-K)の認証(適否の理事長への報告、認証書発行など)
6. 2024年度2-3月 次年度 試験準備
7. 随時:学会および支部会等の研修主催者より、本委員会へ提出された更新のための研修ポイントの認定作業
8. 次年度にむけた試験のあり方を他の認定制度の委員会と連携して検討を行う(CBT等より効率的な試験運営案の検討)

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

Web会議10回、メール審議10回程度を予定(別途試験問題作問WG)

専門臨床工学技士制度委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

専門臨床工学技士の制定を継続して行う。被認定者の増加のための啓発活動。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 認定申請の受付と書類審査
2. 認定試験問題の作成および試験の実施
3. 認定審査および合格発表, 認定証の交付

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2

集中治療専門臨床工学技士試験委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

専門臨床工学技士認定試験問題作成の適正実施(不適切問題の回避、適切な難易度)
作問ルールの標準化とブラッシュアップ会議の省力化。
集中治療専門臨床工学技士のブランディング

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 試験問題の作成、ブラッシュアップ
2. 試験の実施
3. 合否判定
4. 認定証の発行
5. 作問ルール(案)の作成

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

7回

集中治療理学療法士制度委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

集中治療理学療法士認定試験の試験問題を作成する。
第2回集中治療理学療法士認定試験を実施する。
集中治療理学療法士の第2回認定を行う。
集中治療理学療法士認定施設や集中治療理学療法士研修施設の検討と制度化を開始する

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

集中治療理学療法士認定試験問題第1回締め切り(5月7日)
集中治療理学療法士認定試験問題第2回締め切り(5月31日)
集中治療理学療法士認定試験問題確認(7月30日)
集中治療理学療法士認定試験(10月26日)

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6回

集中治療専門薬剤師制度委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

集中治療専門薬剤師制度の適正かつ、円滑な運用を図る。
集中治療専門薬剤師制度規則および施行細則の運用を管理し、運用にあたって生じた疑義を処理するとともに、集中治療専門薬剤師の認定、更新、および登録に関する業務を担当する。

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・集中治療専門薬剤師申請者が提出した申請書類の審査を行う。
- ・申請要件を満たすと認められる申請者を対象に試験を実施する。
- ・集中治療専門薬剤師申請者に対して申請書類の審査および試験結果に基づいて適否を決定し、その試験結果を理事長に報告する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6回

集中治療看護委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- 1.学会のビジョンに沿った看護師の活動計画と実行に向けた調整を図る。
- 2.支部会と連携・調整を図り、看護師の臨床研究を支援するためのセミナーの企画や支部学術集会への看護師の参加を促すための取り組みを検討する。
- 3.集中治療看護の課題を調査により明らかにする。
- 4.集中治療看護師認証制度委員会との連携を図り制度構築に参画する
- 5.集中治療看護に関する施設調査について前年度からの見直しを行いながら継続し、看護の実態を把握する。
- 6.看護師が関与する各種委員会と情報を共有し、必要に応じて相談に対応する。
- 7.必要に応じて会員からの意見を収集し委員会活動に反映させる。
- 8.診療報酬改定に係る看護関連の内容を検討する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- 1.学会のビジョンに沿った看護師の活動の方向性に関して討議する。
- 2.支部会代表者と定期的な情報交換の機会をもつ。支部会学術集会において、多職種の研究を支援するためのセッションを企画する。
- 3.集中治療看護の課題についてデルファイ法を用いた調査により明らかにする。
- 4.集中治療看護師認証制度の構築に向けて当該委員会と情報を共有し、本委員会からも意見を述べるなど連携を図り制度構築に参画する。
- 5.集中治療看護に関する施設調査を継続して実施できる体制を構築し、看護の実態の把握に努める。
- 6.診療報酬改定に向けた看護関連の内容を検討し案を提出する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4~6

看護教育委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- 1.学会における看護教育活動の方向性を定めること
- 2.集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを踏まえた教育を提供すること
- 3.教育的手法を用いて、集中治療における看護の質を向上させること

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- 1.学会における看護教育の活動の方向性に関して討議する。
 - ①看護協会や関連学会の動向、集中治療領域の問題や課題について会議にて検討する。
 - ②支部会が企画する看護セミナーの内容の確認と承認
- 2.集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを育成するための教育内容の検討(セミナー内容へ反映)
- 3.多職種を対象とした、下記の(web)セミナーを開催する。
 - ①ICUセミナー(初級)2回(6月、10月)
 - ②ICUセミナー(中級)2回(8月、12月)
 - ③意思決定支援プロセスセミナー ベーシック2回(6月、10月)、アドバンス1回(11月)
 - ④医療安全セミナー基礎編1回(8月)
 - ⑤重症患者の睡眠に関わるセミナー(9月)

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

5回

集中治療臨床工学委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- ・臨床工学技士集中治療テキストの改訂、刊行
- ・VA-ECMOの使用における臨床工学技士の業務内容について実態調査を行う。
- ・集中治療CEセミナーを開催する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

臨床工学技士集中治療テキストの刊行は2025年5月末を予定している。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

10回程度

集中治療薬剤委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 集中治療薬剤師の質的向上
 - (1)集中治療室における薬剤師によるタスク・シフト/シェアとしてのPBPMの推進
 - (2)集中治療薬剤師の質的評価の検討
2. 教育活動
 - (1)集中治療薬剤セミナー:年1回のセミナーを開催する。
 - (2)学術集会:集中治療薬剤委員会からの教育講演, シンポジウム, パネルディスカッション等を企画し, 提案する。
3. 専門育成:集中治療専門薬剤師制度の運営を専門薬剤師制度TFと協同し、広報していく。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 集中治療専門薬剤師制度の周知
集中治療専門薬剤師制度を集中治療専門薬剤師制度委員会と協同し、より多くの薬剤師に専門薬剤師制度を知ってもらうために広報活動を行う。
2. 集中治療における薬剤師の質の向上
日本集中治療医学会 集中治療に係るタスク・シフト/シェアに関する安全管理指針が2023年度公開され、薬剤師としてはPBPMの推進が一つの肝である。そのため、集中治療室における事例を収集していく。さらに、集中治療室の薬剤師の質を評価するために、Quality Indicator: QIを議論していく。
3. 集中治療領域における薬剤の配合禁忌について
日本集中治療医学会ホームページおよび日本集中治療医学会雑誌への委員会報告として、「集中治療領域における薬剤の配合禁忌について」の小見出しの決定が完了した。2024年度中に総説として投稿することを目指す。
4. 集中治療における薬剤の適正管理に関する教育
集中治療薬剤セミナーを年1回として企画し、運営する。集中治療薬剤セミナーを開催し、日本集中治療医学会からの薬剤の安全管理を考える機会を提供する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4

集中治療PT・OT・ST委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 集中治療理学療法士に関するセミナー開催
2. 集中治療に携わる作業療法士の質向上を図る
3. 集中治療における言語聴覚士の認知を拡大する
4. 集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員増加を図る

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 集中治療理学療法士に関するセミナー開催
2. 集中治療に携わる作業療法士の実態調査のためミニマムスタンダード調査の実施
3. 言語聴覚士学術集会で集中治療に関連したセッションを設ける
4. 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員増加を図るための、具体策の立案と実践
5. 来年度以降のセミナーに関し改めて検討

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回

集中治療リハビリテーション委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

ガイドライン委員会と連携してガイドラインの啓発・普及、リハビリに関わるチーム医療の推進、早期離床リハビリの普及と啓発に向けたセミナーやハンズオンなどを行う

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

ガイドラインをもとにチーム医療によるリハビリテーション計画立案のハンズオンセミナーを行う。
予後改善に向けた包括的なリハビリテーションの取り組みの紹介ならびに症例検討のセミナーを行う。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回

循環器集中治療委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

全国で質の高い心血管集中治療が提供されるように、集中治療医学と循環器病学双方を発展させ、循環器集中治療に関する啓発活動を行い、課題を解決していく。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 学術集会における循環器関連企画の立案と推進

以下の学術集会において循環器集中治療に関する企画を検討し、テーマの選定や座長・演者の推薦を行う。

- ① 第52回日本集中治療医学会学術集会(2025年3月)
- ② 第89回日本循環器学会学術集会(2025年3月)
- ③ その他(日本心臓病学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本救急医学会など)

2. 循環器集中治療に関する最新情報の提供

本会会員に対して集中治療に必要な循環器病学に関する最新情報を提供する。

① 書籍企画

心血管集中治療に必要な国際標準の知識と実践をまとめ、若手医師に役立つマニュアル書を作成する。

② 機関紙における情報提供

③ 循環器集中治療委員会ホームページにおける情報提供

循環器集中治療に関する国内外のトピックスや学会セッションなどリアルタイムの情報を提供する。

3. 循環器救急・集中治療の推進に関する課題の検討

日本循環器学会や本学会他委員会との共同活動として、循環器救急・集中治療をさらに発展させるための課題について検討を行う。

① CCU施設基準

② 特定集中治療管理料

③ メディカルコントロール体制

④ 循環器病対策推進計画

⑤ 診療報酬関係(社会保険委員会との連携)

4. 循環器集中治療に関するトレーニングの開催と支援

① PCAS/ECPRセミナー(ハンズオンセミナー、継続)の開催

② 循環器集中治療セミナー(メディカルスタッフ対象の座学セミナー、新規)の企画立案と開催

③ 心エコーセミナー(ハンズオンセミナー、新規)について検討、企画立案、開催

④ 日本循環器学会が開催しているPCASTレーニングセミナーの共催

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

5回(web4回 対面1回)

小児集中治療委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

小児集中治療にかかる諸問題について検討し、わが国の小児集中治療領域の臨床・教育・研究の向上に寄与する。日本小児集中治療連絡協議会(Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC)の活動をより活性化して、日本小児科学会、日本小児麻酔学会・小児循環器学会小児循環器集中治療研究会・小児集中治療研究会等との連携を深める。集中治療専門医の基本領域となる日本小児科学会とは、2021年度から集中治療にかかる合同委員会を開催している。今年度もこれを継承し、わが国の小児集中治療にかかる活動を一本化してゆくことを、今後の中心的課題としていきたい。さらに、看護師はじめ多職種関連の検討事項も活性化させてゆく方針である。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 日本小児集中治療連絡協議会

(Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC)

- ・災害支援WG, 新興再興感染症WG, 診療報酬WGの活動を継続する。
- ・新たなJAPIC施設参加の呼びかけ、施設調査はじめ各種情報収集を実施する。
- ・基本的にはメール・電話・テレビ会議等で完結する方向であるが、活発な議論を促すために対面での会議も検討する。
- ・施設調査継続と年報発行、協議会開催回数を年間複数回とする。
- ・国際多施設共同研究にかかる情報共有強化と参加強化、JIPAD加入促進も引き続き行う。
- ・関連他委員会とも積極的に情報共有を行う。

2. 小児集中治療部設置のための指針改訂

- ・ICU機能評価委員会, 小児科学会と連携して改訂する。年内の完成を目指す。

3. 当学会以外での小児集中治療関連活動との連携

- ・日本小児麻酔学会、小児循環器学会小児循環器集中治療研究会、小児集中治療研究会との連携を進める。
- ・日本小児科学会との連携をさらに強化する。日本小児科学会小児救急・集中治療委員会(旧称小児救急委員会)をカウンターパートとした当委員会との合同委員会は専門医制度の側面からも非常に重要であり、年2回開催を継続する。

4. 搬送体制強化

- ・集中治療を必要とする重症小児が、小児専門搬送チームによる搬送によりしかるべき施設で最善の治療が受けられるように、全国的な搬送システムを構築することを目標とし、搬送ワーキンググループ設置を検討する。

5. 各種調査・他

- ・職域背景調査、小児集中治療領域にかかる看護関連研究にかかる議論を継続する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

年6回

神経集中治療委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

疾患横断的に集中治療を担当するすべての医療職が、常に重症の脳・神経疾患に対する治療と「二次性脳障害の防止」について考え、実践できる環境を整え、普及・啓発していく

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 委員会の開催
2. ガイドライン
3. RCT
4. ハンズオンセミナー
5. 若手動画コンテンツ
6. ホームページ
7. 若手セミナーに加えて、長期予後registry, ACP, 基礎研究とのコラボ(Neuroscience), 脳外科、てんかん専門家との関係強化, 保険承認、保険点数収載を検討する。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

web会議で委員会を開催する。

感染管理委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

感染管理に関する教育・啓発活動の仕組みを構築し、集中治療における感染管理, 抗菌薬適正使用, 感染管理サーベイランス, および管理ネットワークを強化する,

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. WHO手指衛生キャンペーンへの学会としての参加:2018年から学会として関与している左記グローバルキャンペーンに次年度も参加する。他学会・組織と共同で日本語訳ポスターの作成、展開を行い、これまでと同様に学会評議員に対して完成したポスターを印刷して配布する。
2. 集中治療スタッフのための感染対策セミナーの実施:ICUにおける感染予防管理に関する専門家を招き、講演やシンポジウムを交えたセミナー(半日)を実施する。本年も現在のホットトピックを企画し、集中治療従事者における感染管理の理解を深める。
3. WHO手指衛生セミナーの実施:WHOが発表し、世界的にも認知されているガイドラインに則った手指衛生セミナーを継続的に実施する。これまで、日本環境感染学会と共同の開催としており、本年度も同様の組織横断的な取り組みとして集中治療従事者の感染管理に理解の広がり実践を与える。
4. ICU領域の感染管理・抗菌薬適正使用関連のネットワーク強化:全国のICUにおける医療関連感染症の発生率や抗菌薬の使用状況などの感染予防管理を高めることを目的として、集中治療領域の感染症サーベイランス事業との連携、JIPADの利活用などのサーベイランス事業の仕組み化を検討する。
5. ICD講習会の企画と運営:日本集中治療医学会学術集会におけるICD講習会の企画と運営を行う。
6. 日本環境感染学会との共催シンポジウムの企画:2023年度より、日本環境感染学会学術集会および集中治療医学会学術集会開催時に、合同セッションを運営している。本年も、企画と運営を継続する。
7. 学会関連研究:DIANA、EUROBACT、REMAP-CAPなど、当学会にとって意義の深い感染管理の研究の情報収集にあたり、学会内への情報発信とする。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回(WEB会議)

Global Sepsis Alliance 委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

医療従事者の「敗血症」の理解を促進するとともに、一般の市民にも「敗血症」についての情報を提供する。市民向けイベントなどを通して、敗血症とは何か、敗血症と集中治療の関係、そして予防や早期発見などについて、当委員会が主導となり、敗血症および集中治療に関する理解を高める。敗血症対策を政策に反映する上では、日本の疫学データが必要であり、こちらは日本敗血症連盟(Japan Sepsis Alliance; JaSA)を構成している3学会(当学会、日本救急医学会、日本感染症学会)が協力して行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 敗血症セミナー(医療従事者への知識の提供)

医療従事者の敗血症への理解を促進するために、セミナーを3回開催する。3回の内訳は、当学会主催(2回目、9月の世界敗血症デーの時期に合わせる)、日本救急医学会主催(1回目)、日本感染症学会主催(3回目)とする。開催費用負担は、それぞれの主催学会とする。セミナーは、当面はウェブ形式での開催を考え、対面でのセミナーが可能になれば、対面に移行する。

2. 敗血症ウェブサイトの充実

一般市民への敗血症の情報伝達的手段として、「敗血症.com」を作成し、運営している。市民が興味を持ってこのサイトを見てもらえるように、動画を掲載し、敗血症をイメージしやすい構成となるよう工夫している。このウェブサイトをさらに充実させる。さらに、ウェブサイトのデザインを魅力的なものに改変し、また、コンテンツの再編成をして、内容をアップデートする。

3. 世界敗血症デー関連イベント(一般市民の啓発)

9月13日の世界敗血症デーに合わせて、イベントを開催する。2023年9月12日に、「敗血症のベルリン宣言(Berlin Declaration on Sepsis)」が行われた。2024年9月の世界敗血症デーは、公共の場における市民啓発イベントを企画し、経年的に開催する方法の基盤を形成する。また、メディアへの「敗血症に関する広報活動」を高め、非医療従事者への情報発信をGSA委員会が担当する。

4. JaSA加盟3学会の学術集会での敗血症企画の実施

それぞれの学会の学術集会(日本集中治療医学会 3月、日本感染症学会4月、日本救急医学会11月)で敗血症に関する企画を立案・実行する。また、可能であれば、それぞれの学術集会時に敗血症に焦点を当てた市民公開講座を開催する。

5. 敗血症診療ガイドラインの普及支援

2024年に日本版敗血症診療ガイドライン改訂版が完成したことにより、敗血症セミナーなどで、このガイドラインの内容を医療従事者に知らせるなど、ガイドラインの普及支援を行う。

6. 敗血症の疫学研究

敗血症対策を政策に反映させるためには、日本の敗血症疫学のデータが不可欠である。Disease-Procedure Combination (DPC) データベースを用いてこれを明らかにする。

7. 海外の敗血症に取り組む団体との連携

Global Sepsis Alliance (GSA) やAsia-Pacific Sepsis Alliance (APSA) と連携し、世界規模での敗血症対策に寄与する。また、海外での市民への敗血症啓発の方法などを参考にして、日本での情報発信を促進する。APSAでは、Global Burden of Diseasesのデータベースを用いたアジア/オセアニアに特化した研究を検討しており、こちらへ積極的に参加し、理事会および本学会会で情報を共有する。

Ⅲ. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

GSA委員会会議4回(ウェブ)、JaSA会議(ウェブ3回)

ダイバーシティ委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

本学会が会員のダイバーシティを反映した活動を行うための制度設計を行う。

会員のダイバーシティの反映とは、男女共同参画、若手の登用、多職種の参画、地域の多様性の反映、子育て・介護など人生のさまざまなフェーズでも継続可能な環境・制度、が実現されていることである。

2024年度は2023年度の活動目標および計画を継続しながら、2023年に行ったアンケート結果をまとめるとともに、若手や女性の活躍に繋げるためのダイバーシティ委員会のHPでの情報発信、支部活性化に向けてのダイバーシティの実現に力を入れる。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・ダイバーシティ実現へ向けての学会への提言
- ・ダイバーシティ実現へ向けての現状や希望に関するアンケート結果の集計と公表、論文化
- ・HPを通じてダイバーシティに関する情報発信
- ・学術集会での企画立案・運営
- ・若手集中治療医を増やすための学生や研修医へのセミナー、学生や研修医へのキャリアプランセミナー
- ・学生や研修医への集中治療医学の教育に関する調査
- ・年次学術集会における座長や特別セッション演者の男女比率、多職種登用、年齢分布、プログラム委員会メンバーの年齢分布などのデータの蓄積
- ・支部学術集会におけるダイバーシティの実現のためのデータ収集(支部ごとの司会者等の男女比、年齢分布、職種別等)
- ・学術集会への子供連れの参加や託児所に関する他学会の実情調査
- ・託児所利用者へのアンケートと改善提言
- ・本委員会の制度設計の指針等の明示

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6 or 12

U35プロジェクト運営委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

学術集会での企画のみならず、国際交流や他学会との交流も進め、U35として活躍できる場所を増やしていく。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・第52回学術集会や地方会でのU35企画の立案・運営
- ・KSCCM, ESICMとのコラボレーション企画
- ・U35主体のセミナー企画
- ・救急医学会、麻酔科学会など他学会へのブース出展
- ・集中治療医学会サマーキャンプでの活動

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

- ・毎月第2水曜日に全体Web会議(年12回)
- ・委員による年1回の現地MTG

JICRG・学会主導共同研究推進会議

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

JICRG endorsed 研究を遂行できるよう支援する

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

JICRG endorsed 研究を遂行できるよう支援する
JICRG approved 研究の審議を継続して遅滞なく行う

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2

CTG(Clinical Trial Group)委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

研究助成制度を実施し、会員による集中治療領域における新たなエビデンスの創出を支援する。また、従来通り多施設研究の研究協力施設拡大の支援を目的とした認定審査も積極的に行っていく。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. CTG委員会研究助成制度の運営を行う
2. CTG委員会応募研究の審査を行う

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

1回を対面(こちらは助成金審査のため理事会でも対面での審査をご承認いただいているかと存じます)、1回をWebにて実施

研究倫理委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

会員の「研究倫理」の啓発・普及などの教育活動を行う。
会員の研究活動の不正の疑義が生じた場合に審査を行う。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 学術集会における発表および研究に関する不正疑義の事案を調査し、レポートを作成する。会員の今後の研究倫理の参考となるようにデータを集積する。
2. 学術集会発表におけるeAPRIN JSICMコース受講必須化および基盤システムとの連携体制の強化および促進を図る。
3. 研究倫理に関するアナウンス、研究倫理に関するよくある質問(FAQ)の改訂を行う。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

2

英文機関誌編集委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

国内外の編集委員体制を強化したうえで、論文投稿のグローバル化を図り、アジアを拠点とする集中治療国際誌として、より一層の影響度の向上を図る

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 編集体制強化

迅速かつ的確な査読は質の高い論文掲載には必須であり、国内外の編集委員体制を強化してJournal of Intensive Careの影響度の増強を図る

2. Reviewer of the year表彰

質の高い論文掲載に必須な「的確な査読」を頂いた会員に敬意を表し、表彰する

3. Highly cited article表彰

Journal of Intensive CareのJournal Impact Factor向上に貢献した論文を投稿した会員に敬意を表し、表彰する

4. Journal of Intensive Care賞の推薦

会員の本機関誌への論文投稿を一層高めるため、優れた論文を優秀論文選考委員会に推薦する

5. 世界への広報

Social Mediaの活用など様々な手段を通じ、世界の集中治療領域の医療者研究者へのJournal of Intensive Careの認知度を高める

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

3(すべてweb会議)

機関誌編集・用語委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 的確でスピーディーな編集作業を行う。
2. 学会員へ有益な機関誌を提供する。
3. 用語集の改訂を実施する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. オンライン和文機関誌の発行:年7回
年6回定期隔月誌
年1回学術集会号(学術集会会長が編集)
企画特集号を発行する可能性あり(最大で追加1回);50周年記念誌については、2024年度に発行予定ですが、50周年プロジェクトチームから予算計上されます。
2. 機関紙編集・用語委員会(定例4年回・臨時随時)の開催 ※すべてWeb開催
3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
4. Reviewer of the yearの表彰
5. 用語集の改訂、ウェブ化
6. eAPRIN必修化に伴う制度変更の実施状況の確認

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4

優秀論文賞選考委員会

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

1. 応募論文(優秀論文賞、奨励賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞)を厳密かつ慎重に審査し、4論文を委員会として理事会に推薦する。
2. 優秀論文賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞の中から最も優秀な臨床分野の研究論文を平澤博之記念賞(最優秀論文賞)を委員会として理事会に推薦する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

1. 優秀論文賞の推薦
2. 奨励賞の推薦
3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦
4. Journal of Intensive Care賞の推薦
5. 平澤博之記念賞(最優秀論文賞)の推薦

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

1

集中治療を要する重症患者の広域搬送ガイドライン作成委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

ガイドラインの制定及び令和4年度診療報酬改定における集中治療を要する重症患者の救急搬送診療料の項目の追加を踏まえ、集中治療を要する患者の搬送に必要な知識・技術の習得及び練度維持を目標にしたスキル・セミナーを開催することを目標とし、講師養成、セミナーのカリキュラムの制定、コースの構築等を行うとともに、少なくとも1回以上のコース開催を実施する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

本会セミナーの開催(会場及びオンライン開催、年4回程度、開催地東京、会場50名、オンライン200名程度)
⇒診療報酬に定める重症患者搬送チームの普及及び質の均てん化を企図して開催するもの

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

4回以上

重症患者リハビリテーション診療ガイドライン委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

診療ガイドラインの普及・啓発活動を行う。

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

ダイジェスト版の発行
啓発活動のためのセミナー運営
各種学会での啓発活動

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

6回

日本版重症患者の栄養療法ガイドライン検討委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

”日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024の作成を行い、その普及を行うこと
2024年度は作成したガイドラインを英語版日本語版ともに発刊し、栄養療法ガイドラインアプリを公開、これらの普及活動と今後の急性期栄養療法の発展を検討する。

II. 活動計画(箇条書により、簡潔な説明を記入すること)

2023年度に作成したガイドライン2024を発刊するため、日本語版および英語版を作成し、日本集中治療医学会雑誌およびJournal of Intensive Care誌への投稿を目指す。また同じく2023年度に開発した栄養療法ガイドラインアプリを公開し、さらに昇華を進める。ガイドラインおよびガイドラインアプリ、そして急性期栄養療法を全国ICUに普及させるための活動を展開する。

栄養ガイドライン2024
日本語版、ダイジェスト版、英語版作成

栄養ガイドラインアプリ開発
ver1公開、システム昇華

日本集中治療医学会 急性期栄養療法セミナー開催
年1回を目途に、同委員会メンバーが主体となって急性期栄養療法に関するセミナーを開催し、栄養ガイドラインとアプリの普及を目指す。

全体の活動計画の概略は以下のとおりである。

1. 日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024(日本語本文、英語版、ダイジェスト版、アプリ版)の各媒体を完成させ、公開する。

(集中治療専門医以外も含む幅広い層を対象とし、本邦の急性期栄養療法を向上させること、本邦から世界に発信する新しい急性期栄養療法ガイドラインを作成することを目的とする)

2. 急性期栄養療法に関する知見を整理し、わかりやすい栄養療法の考え方や戦略を提示することで本邦の急性期栄養療法のレベルを向上させ、本邦の急性期栄養療法の臨床・研究を推進する。

3. 急性期栄養療法セミナーの開催を通して日本版重症患者の栄養療法ガイドライン2024公開と普及を進める。

4. 次回ガイドライン作成準備を行う。”

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

100回以上

神経集中治療ガイドライン作成委員会(Ad Hoc)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

診療ガイドラインの作成を行う

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

当初の計画に準じて、診療ガイドラインの作成を行う

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

3回

日本版敗血症診療ガイドライン2024特別委員会(Ad Hoc/日本集中治療医学会・日本救急医学会合同)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- ・日本版敗血症診療ガイドライン2024を公表する。
- ・ガイドラインの普及、導入、評価を行う

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・ガイドラインの公開を行う:本編(日本語、英語)及びダイジェスト版
- ・広報班を中心に学会、メディア、医師会などを通じて普及啓発活動を行う
- ・アプリを完成させ、普及啓発を行う
- ・ガイドラインの評価を行う

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

現時点では会議予定なし

ARDS診療ガイドライン作成統括委員会(Ad Hoc/日本呼吸器学会、日本呼吸療法医学会、日本集中治療医学会 合同)

I. 活動目標(1年間の委員会目標を、簡潔に記入すること)

- 1) ARDS診療ガイドライン2026の作成
- 2) クリニカル・クエスチョン(CQ)の選定
- 3) パネル委員会の選定・開催
- 4) アウトソーシングの検討

II. 活動計画(簡条書により、簡潔な説明を記入すること)

- ・ パネル委員会を開催し、ARDS診療におけるクリニカル・クエスチョン(CQ)を選定する
- ・ 選定されたCQに対してシステマティック・レビュー(SR)を行う
- ・ 上記作業に関する必要人員を募集・決定する
- ・ 上記作業の中から、アウトソーシング可能な作業行程を抽出する

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

委員会打合せ 6回, パネル委員会 1回